

1	日ソ漁業条約締結関係	二四六
2	日ソ漁区問題	二七四
3	宇田競落漁区問題	三八〇

## 五 人物・文化交流

1	後藤新平訪ソ関係	四二四
2	極東ソ連訪日団関係	四八三
3	その他文化交流	五一一

## 六 ソ連の内政・外交関係

付録	日ソ漁業条約および付属文書	五四七
----	---------------	-----

## 日本外交文書 昭和期I第二部第三卷 日付索引

### 一 日ソ外交関係

#### 1 日ソ外交問題

1 昭和2年1月14日 出淵(勝次)外務次官 会談  
在本邦ソ連邦代理大使

#### 満州問題・漁業問題等に関する会談要旨

昭和二年一月十四日出淵外務次官ト「ベセド  
 フスキー」「ソ」連邦代理大使トノ会見要旨

(満州問題ニ関シ)

次官

代理大使ハ日本カ満州ニ於ケル露国ノ正当ナル権利利益  
 ヲ犯ササル趣旨ヲ声明セムコトヲ過般来再三懇請セラレ  
 タルカ之ヲ態々新聞紙上ニ声明スルカ如キハ却テ誤解ヲ  
 招クノ虞アルコト已ニ申述置キタル通ナリ然ニ近日中議  
 会開カルルニ付其機会ニ於テ声明スルコト可ナルヘシト  
 存シ目下大臣ニ於テ考案中ナリ

代理大使

只今ノ次官ノ言ニ対シ深謝ス

満州ニ関スル露国ノ見地ハ今モ尚ホ何等変化ナシ吾人ハ

満州ニ於ケル権利利益ヲ保持スルヲ目的トシ何等政治上  
 ノ目的ヲ有セス日本ノ声明ハ兩國政治上ノ協定ノ端緒ト  
 ナルヘシ

次官

日本カ声明シタリトテ必スシモ直ニ政治上ノ協定ノ端緒  
 トナルヘシトハ考ヘラレス是迄日本ハ態々声明ヲ為スコ  
 トニハ反対シ来リタルカ議會ニ於テ之ヲ為スコトハ適當  
 ナルヘシト思料ス乍去貴方ニ於テ協定ノ伴ハサル声明ヲ  
 好マレサルニ於テハ更ニ考ヘ直シテモヨロシ

代理大使

議會ニ於テ声明セラルルコトハ機宜ノ措置ナリト思フ政  
 治上ノ協定云々トハ右声明ニ依リ極東ニ於ケル諸問題ニ  
 関スル政治的協定成立ノ途開カルヘシトノ意ナリ

次官

此際協定問題ニ触ルルニ及ハサルニアラスヤ

代理大使

嘗テ「バクト」ニ関シ會談シタル際次官ハ北京條約ニ予想シアル事項タル漁業協約ノ改訂及通商條約ノ締結ヲ終リタル後ニ於テ初テ政治的協定ニ付キ考慮スヘキモノナリト言ハレタルコトヲ記憶シ居ル次第ナルカ兎ニ角日本ノ聲明ハ兩國親善ノ証左タルヘント思フ

次官

聲明ト「バクト」トハ別問題ナリ兩國間ニハ實際上ノ親善關係ヲ必要トス實際上ノ親善關係サヘアラハ「バクト」ノ存在ヲ必要トセス實際上ノ親善關係ナキニ於テハ「バクト」アリトテ何ノ役ニモ立タサルヘント思フ

代理大使

全ク同感ナリ

次官

日本政府ハヨク露國ノ方針ヲ承知シ居ルニ依リ露國ト親善ヲ結フ方針ヲ適當ノ機會即チ議會ニ於テ聲明スルヲ可ナリト考ヘ居リ予テ御希望モアリタルニ付只今之ヲ貴下ニ御話シタル次第ナリ

(註) 前記談話ハ後記問題ノ解決ニ資セムカ為行ヒタル次第也

(漁業問題ニ関シ)

次官

代理大使ハ只今漁業協約ノ改訂ニ言及セラレタルカ前回會見ノ際漁業問題カ十二月末迄ニ解決セラルル様政府ヘ稟申スヘント述ヘラレタル処今尚ホ解決ヲ見サルハ如何ナル理由ナリヤ

代理大使

本問題ニ関シ自分ノ為スヘキコトハ總テ之ヲ為セリ然ルニ若シ問題ノ解決ヲ見ストセハソハ双方ノ experts カ余リニ多ク語ルニ因ルナラン實際双方トモ極メテ短ク語レハ足ルト思ハル併シ双方ノ意見ノ相違モ大分少クナリタル模様ナレハ早晚條約ノ締結ヲ見ルニ至ルヘント思フ

次官

露國側 experts ハ日本側ニ比シ倍ノ理屈ヲ言ヒ居レルカ貴下ハ之ヲ承知シ居ラルルヤ

代理大使

自分ハ會議ニ關係シ居ラサルニ依リヨクハ承知セサルモ自分ノ接手シ居ル情報ニ依レハ双方トモ多く理屈ヲ言ヒ居ル様見受ケラル

次官

漁業契約ノ改訂ヲ促進スル方法ナキヤ

代理大使

次官ヨリ今日ナラストモ近日中ニ日本要求ノ限度ヲ承知スルコトヲ得ハ自分ハ政治上ノ見地ヨリ促進ニ努力スヘシ

次官

政治的見地トハ如何漁業問題ハ政治的問題ニハアラス

代理大使

條約ノ締結ニハ經濟的ト政治的の方面トヨリ之ヲ考察スルヲ要シ漁業協約ノ如キハ經濟的問題ニ屬スト雖政治的見地ヨリ之カ改訂ノ促進ヲ計ルコトヲ得ヘント思フ

次官

貴下ノ説明ハヨク了解セリ

漁業會議ノ経過ハヨク承知シ居ラルルヤ隨時報告ニ接シ居ラルル義ナルヤ

代理大使

情報ニハ接シ居ルモ常ニ郵便ニ依リ居ルコトトテ最近ノ情報ニハ接シ居ラス

次官

滿州問題ニ関スル日本ノ聲明ハ日本カ露國ノ親友トシテノ言ナレハ此機會ニ於テ速ニ漁業問題ヲ解決スルコトトシタラハ如何

代理大使

自分ハ漁業問題ニ対スル日本ノ態度ヲヨク知り居リ日本ノ要求ハ合法的要求ナリト信シ居ルニ依リ解決促進方ニ付早速政府ニ電報スヘシ本問題ノ良好ナル解決ハ兩國友好關係ノ demonstration タルヘシ自分ハ今後代理大使タル期間モ長キニアラサルカ其ノ期間中ニ漁業問題ヲ片付クル様努力スヘシ

次官

漁業問題ニ対スル貴下ノ尽力ヲ深謝ス自分ハ經驗ニヨリヨク貴下ノ熱心ナル尽力ヲ熟知ス

目下未解決問題ノ重ナルモノハ國營企業特權及罐詰工場ノ問題ナルカ之ニ関シテハ時間ヲ省ク意味ニテ山口氏ヲシテ露語ニテ説明セシムヘシ

山口領事ヨリ右二問題中未解決事項ニ付概説シタル後日本側ニ於テハ露國側カ日本側ノ主張タル國營企業ノ競争不參

加ヲ承認スルニ於テハ他ノ諸問題ハ比較的容易ニ解決セラ  
ルヘント考ヘ居レル旨ヲ述フ

#### 代理大使

自分モ未解決問題ハ国营企業、罐詰工場及課税ノ三問題  
ナリトノ報道ニ接シ居レリ

#### 次官

漁業問題ノ交渉渉ラサルニ於テハ議會ノ問題トナリ議會  
ニ於テ露国ノ不誠意呼ハリヲ為シ喧囂ヲ極ムルコトと思  
ハルル故此際日本ノ主張ヲ容ルル様政府ニ電報セラレタ  
シ

#### 代理大使

次官ノ御話ノ趣ハ早速政府ニ電報スルコトトスヘシ

#### 次官

議會ニ於ケル政府攻撃ハ恐ルル所ニアラス只露国ニ対ス  
ル攻撃カ国民ノ露国ニ対スル感想ヲ悪化セシムルコトヲ  
恐ルル次第ナリ

(露領沿岸漁場ニ於ケル共產主義ノ宣伝ニ関シ)

#### 次官

露領沿岸漁場ノ日本労働者ニ対シ行ハレツツアル共產主

#### 代理大使

大使館内ニ委員会ヲ設ケテ評価ヲ為サシメタルモノナル  
カ地面ハ坪五百円ニテ約百九十万円建物ハ一昨年修繕ノ  
際大林ニ見積ラセタルモノナルカ其ノ評価五十万五千円  
ニシテ外ニ堀ハ二万円付属建物モ二万円ノ評価ナリ但シ  
建物ノ評価ヨリハ amortization トシテ「パーセント」  
半ヲ控除シアリ

#### 次官

是レヨリ議論ニ移ルヘシ貴方ハ地面一坪五百円ト見積リ  
居ラルルカ其ノ地面ハ如何程ニテ買ヒタルモノナルカ承  
知セラルルヤ

#### 代理大使

自分ハ知ラサルモ次官ハ承知セラルルナラン地面ノ評価  
ハ其ノ付近ノ売価ヲ標準トシタルモノナリ

#### 次官

斯ノ如キ分カリキツタルコトハヨク知り居レリ元来大使  
館ノ地面ハ帝國主義者タリシ露国帝政府カ当時貧弱ナ  
リシ日本ヨリ無代ニテ取リタルモノナリ然ルニ今帝國主  
義ヲ排斥スル貴国政府カ高キ評価ヲ以テ之ヲ売却スルコ

義ノ宣伝ニ関シテモ亦時間ノ空費ヲ避ケ山口氏ヲシテ其  
ノ概要ヲ述ヘシムヘシ

山口領事ヨリ露領沿岸漁場ニ於テ武装セル「ゲ・ペ・ウ」ノ  
援護ノ下ニ「ピストル」ヲ携帯セル日本人又ハ日本語ヲ善ク  
スル朝鮮人漁舍内ニ入り来リ日本労働者ニ対シ共產主義鼓  
吹ノ演説ヲ為シ又ハ各種宣伝文ヲ配布シ居レル状態ヲ述フ

#### 代理大使

早速政府ニ電報シ今後漁場ニ於テ斯ル行為ヲ為サシメサ  
ル様取計フヘシ

(大使館移転問題ニ関シ)

#### 次官

私ハ貴下ニ対シ一ノ不平ヲ有スルカ友人タル貴下ハ其ノ  
不平ヲ聴キ下サルコトト信ス大使館移転問題ニ付テハ最  
近移転先敷地決定シテヨリ貴方ヨリ法外ナル要求ヲ為サ  
レタルヲ甚タ遺憾トス

代理大使トハ政治問題ニ付テハ常ニ意見一致スルカ  
business ニ付テハ意見ノ一致ヲ見ス

貴方ハ大使館建物及地面ノ評価ヲ如何程ニ見積リ居ラル  
ルヤ

トトナラハ日本人ハ永久ニ之ヲ記憶スヘシ之レハ兩國ノ  
為ニモヨシカラス一体評価坪五百円ハ何人カ付シタル  
ヤ

#### 代理大使

自分ハ本問題カ兩國間ノ紛争ノ因トナルトハ思ハス評価  
ハ大使館内ノ委員会ニ於テ為シタルモノニテ概算ニ止マ  
ル日本側ヨリ具体的対案ヲ得ルコトト致シタシ然ラハ之  
ニ付考量ノ上讓歩スヘシ

#### 次官

地面ノ評価ノ高キコトハ非常ニ日本人ノ神經ヲ刺戟スヘ  
シ日本ハ帝政府ノ大使館書記官「アプリコーソフ」ヨ  
リ引渡ヲ受ケタル大使館建物ヲ(震災ノ為メ破損セシ分  
ヲ別トシ)国交回復後其ノ儘完全ニ「クズネツォフ」書  
記官ニ引渡シタルカ是ハ貴国ト親善關係ヲ保持セムトス  
ルノ誠意ニ出テタルナリ然ルニ貴方ハ斯ノ如キ高キ評価  
ヲ以テ讓ラムトセラルルハ蓋シ商人ノ意見ニ因リタルモ  
ノナラン

#### 代理大使

我方ノ提案ニ対シ具体的対案ヲ得タシ然ラハ更ニ考量ス

へシ

地面ノ方ハ付近ノ土地ノ売価ヲ標準トシテ坪五百円ト評  
価シタルモノニテ商業上ノ秘密ヲ洩ラスコトトナルカ譲  
歩シテ他ノ数字ト為スヘシ併シ建物ノ方ハ一昨年二十万  
円ヲ費シテ修繕ヲ施シタル際大林ニ評価セシメ政府へ報  
告シアル次第ナルニ依リ讓歩困難ナリ

次官

貴方ニ於テ更ニ考ヘラルルコトヲ満足ニ存ス

只一言シタキハ大林ハ修繕ヲ引受ケタル關係上斯ル評価  
ヲ為シタルモノナランモ大林カ其ノ建物ヲ買フ為ナラハ  
五万円ノ評価スラ付セサリシナラン

我方ヨリハ既ニ対案ヲ出シアリ確ト記憶セサルモ差額五  
十万円程貴方ニ提供スルコトトナリ居レリ

代理大使

五十万円ニテハ余リニ少額ナリ七十万円ナラハ考量スヘ  
シ兎ニ角貴方対案既ニ出テ居ルコトナラハ更ニ考量スル  
コトトスヘシ云々

2 昭和2年1月29日

在ソ連邦田中(都吉)大使より  
幣原(喜重郎)外務大臣宛(電報)

ニシテ事態ヲ正解シタリトセハ必スヤ「ソ」連邦トノ提携ヲ  
輕視スルコト能ハサル可シ吾人ハ重ネテ幣原男ノ演説ヲ歡  
迎スルト共ニ日「ソ」關係ノ改善ニ付「ソ」連邦ノ輿論ハ常  
ニ日本ノ輿論ヲ十二分ニ支持スヘキコトヲ声明スト結ヘリ

3 昭和2年9月30日

出淵外務次官口述筆記

我が国の対ソ提携基本方針について

一、日本カ露国トノ間ニ親善關係ヲ持續セントスル所以ハ  
専ラ地理的經濟的關係ニ基クモノナリ之ヲ地理的方面ヨ  
リ觀ル時ハ日本ハ樺太及朝鮮ニ於テ露国ト接壤ノ關係ニ  
在リ又ハ滿州ニ於テハ特殊ノ歴史ヲ有スル事実上露国ノ  
鐵道タル東支鐵道ト日本ノ鐵道タル南滿州鐵道カ寛城子  
ニ於テ互ニ接続シ居リ又之ヲ經濟的關係ヨリ觀ルニ北樺  
太ニ於テハ石油石炭ノ利權ヲ有シ沿海州ニ於テハ年額五  
千万円ニ達スル漁業權並ニ將來發達ノ望ミアル森林ニ関  
スル權利ヲ有シ又滿州ニ於テハ東支南滿兩鐵道接続ノ関  
係ヨリシテ緊密離ルヘカラサル經濟的關係ヲ有シ尚接壤  
国タル關係ヨリシテ一般の貿易上重要ナル利害ヲ有ス日

幣原外務大臣の議會演説に関するイズヴェス  
チャ紙の社説について

モスクワ

發

本省 1月29日 前着

第三二号

閣下ノ議會演説ニ付曩ニ「カラハン」ハ本使ニ対シ右ハ外務  
部ニ於テノミナラス更ニ有力ナル方面ニ於テ満足ヲ以テ迎  
ヘラレタリト述ヘタルカ一月二十八日「イズヴェスチヤ」  
ハ日本ト「ソ」連邦ト題セル社説ヲ掲ケ先ツ右演説ハ兩國関  
係ノ歴史ニ於ケル貴重ナル文書ナリトテ「ソ」連邦ニ関セル  
分ノ全訳ヲ掲ケタル後西欧ノ敵カ赤色帝國主義ヲ云々スル  
今日「ソ」連邦カ極東ニ於テ軍事上政治上侵略的意圖ヲ有セ  
ストノ確信ヲ述ヘラレタルコトヲ歡迎シ演説中最重要ナル  
点トシテ「ソ」連邦ハ極東ニ於ケル平和ノ「ファクター」ナ  
リト述ヘラレタルコト、日「ソ」關係ノ完全、薩哈噠利權、  
支那ニ於ケル日本ノ政治上ノ「アスピレーション」ト日「ソ」  
国交ノ關係ニ付開陳セラレタル処ヲ指摘シ最近日本ハ支那  
ニ於テ英國ト途ヲ共ニスヘカラサルコトヲ理解シ日本ノ外  
交ハ支那ノ國民運動ノ何タルカヲ正解シツツアルトテ日本

露兩國ノ關係ハ斯ノ如ク重要ナルヲ以テ日本ハ兩國ノ関  
係ヲ常ニ安定ナラシムヘキハ勿論此ノ重要ナル關係ヲ益  
益發展セシムルコト兩國ノ為メ重要ナリト認ム米國ハ國  
際責務不履行ヲ口実トシテ露国トノ間ニ国交關係ヲ結ハ  
サルモ經濟的ニ之ヲ觀ルニ露国ト米國トノ關係ハ頗ル緊  
密ナルモノナリ米國ノ資金ハ独逸ヲ經テ露国ニ流レ又露  
國ノ産物ハ均シク独逸ヲ經テ間接直接ニ米國ニ送ラレ居  
ルコト事實ニシテ極東方面ニ於テモ米國ノ無電機械ハ  
「ハバロフスク」方面ニ於テ利用セラレ居ル事實モアリ  
米露ノ關係ハ表面ト裏面トヲ著ク異ニシ居ルコトヲ閑却  
スヘカラス英國ト露国ノ關係ハ今日ニ於テコソ絶交シ居  
レ他日自由主義ヲ奉スル政府英國ニ樹立セラレタル曉ニ  
ハ必ス国交恢復シ經濟關係急速ニ進展スヘキハ疑無シ國  
交断絶ノ今日ト雖モ英國ノ品物ハ独逸人ノ手ニ依リドシ  
ドシ英國ニ輸出セラレ居ル事實ハ之ヲ看過スルヲ得ス日  
本ハ英米ノ對露關係斯クノ如キモノナルニ着眼シ表面上  
ノ關係ヲ顧念シ日露ノ關係ヲ律スルニ當リ必スシモ神経  
過敏タルノ必要無シ日露兩國ノ關係叙上ノ通り重要緊密  
ナルモノアル以上日本国存立ノ必要上ヨリシテ列國ノ態

度如何ヲ顧ミス飽迄親善關係ヲ結フコト得策ナリト思料ス接壤國間ニ離ルヘカラサル經濟關係アルコトハ列國ト雖モ同情ヲ以テ見ルヘキヤ疑無シ

二、日露兩國ハ地理的經濟的關係ヨリ觀テ右ノ如ク重要ナル關係ニ在ルモ政治的の方面ヨリシテハ別段深入リスル必要無く又少クモ今日ハ深入リスヘキ時機ニ在ラスト思料ス其ノ理由ハ(甲)日露兩國ハ國交恢復ニ関スル基本條約ニ調印ヲ了シ爾來國交予期以上ニ円満ナルコトヲ得タルモ漁業協約サヘモ未タ調印ノ運ヒニ至ラス兩國間恒久ノ友交關係ヲ定ムヘキ通商條約ニ至リテハ未タ討議タニ開始スルノ運ヒニ至ラス從テ國交關係ノ全局ヨリ判斷スルモ未タ政治的の關係ニ深入リスヘキ場合ニアラス兩國ノ關係經濟的の意味合ヲ基礎トスル限リ列國ノ神經モ左迄鋭敏トナラサルヘキモ一度ヒ政治的の關係ヲ結ハムカ必ス各種ノ揣摩憶測起リ実益伴ハスシテ弊害ノ伴フコト多カルヘシ(乙)日露兩國ハ嘗テ滿韓兩地方ニ於テ覇ヲ争ヒ遂ニ日露戰爭ヲ惹キ起シ其ノ結果日本ハ南滿州ニ於テ露國ノ地位ヲ繼承シタル結果旧帝政時代ニ於テ戰爭ニ伴フ兩國ノ惡感情相当蟻リタルモ同時ニ滿州ニ於テ政治的のニ將又經濟的

モ必要無キニ至リタリ

右様ノ次第ナルヲ以テ日露ノ間ニ政治的の關係ヲ結フコトハ日本ニ取ツテ何等実益無キ事柄ナルヲ以テ假令經濟的の方面ニ於テ重要ナル交換問題起ル場合ニ於テモ日本ノ國際關係ノ大局ヨリ顧ミ政治的の關係ニ深入リスヘキニ非スト思考ス彼ノ露國カ屢々熱心ニ試ミタル不可侵條約締結ニ関スル問題ノ如キモ今日ノ日露ノ關係ヨリ打算シ我國ヨリ見テ何等必要無キ事柄ナルヲ以テ適宜其ノ申込ヲ回避スルノ態度ニ出ツルコト適當ナルヘシ

三、日露兩國間ニ政治的の關係ヲ結フコト不可ナルハ前述シタル通りナルモ去リトテ兩國間ニ滿州問題ニ関シ互ニ其ノ利益ヲ侵サントスルカ如キ誤解ノ潛ムコトハ徹底的のニ之ヲ避ケサルヘカラサルヲ以テ彼ノ先年「コップ」大使カ本國政府ノ訓令ニ依テ日本政府ニ對シ極東ニ於ケル日本ノ權利利益ヲ尊重シテ敢テ侵ササルヘキコトヲ言明シ又幣外務大臣ハ第五十二議會ニ於テ外交方針ヲ演說シタル際滿州ニ於ケル露國ノ既得ノ權利利益ハ之ヲ尊重スヘキコトヲ言明シタルカ如キ兩國ノ方針ハ機會アル毎ニ之ヲ内外ニ向テ聲明スルコト必要ナルヘシト認ム從テ日

ニ利害關係ノ共通ヲ見ルニ至リタル為メ鐵道ニ関スル一切ノ權利主張ニ於テ常ニ政治的の兩國ノ態度一致シ彼ノ「ノックス」ノ鐵道中立問題ヲ協同シテ排斥シタルカ如キ又英米仏獨ノ四國ハ借款團ヲ組織シ支那ニ於テ財業的活動ヲ為サントシタル際日露兩國ハ協同シテ之ニ割込ミ先ツ滿蒙ニ於ケル特殊權益ニ関シ不徹底乍ラ或ル形式ノ下ニ留保ヲ為シ得タルカ如キ將又兩國共通ノ利害關係ニ對シ確然タル分界ヲ設クル必要上彼ノ滿蒙ニ於ケル勢力範圍ニ関シ二回ノ秘密協定ヲ為シタルカ如キ其ノ著キ例ナリサレト今日ニ於テハ露國ト支那トノ協定ニ依リ露國カ東支鐵道ニ於テ駐兵權行政權ヲ拋棄シ且專屬的經營ヲ事實上合弁ノ形ニ引直シタル等ノ事態ノ變遷ニ因リ政治的の方面ヨリ見テ東支南滿州鐵道著ク趣ヲ異ニシ又露國ノ政體變更ニ伴ヒ露國國民ノ支那ニ對スル大体ノ方針モ其ノ趣ヲ異ニシ同時ニ支那ニ於テ日本ノ勢力昂マリタル結果最早ヤ滿州ニ於テ露國ノ協力ヲ必要トセサルニ至リタルハ勿論勢力範圍協定ノ如キハ現代世界ノ思潮ニ悖ルモノミナラス日本トシテハ之カ為自縲自縛トナル惡結果ヲ齎スノミナルヲ以テ滿州ニ於ケル政治的の提携ノ如キハ毫

本官民共ニ露國官民ト接觸スル場合日本ハ露國革命ノ未タ完了セサル此ノ機會ニ乘シ苟モ滿州ニ於ケル露國ノ正当ナル權利利益ヲ害スルカ如キ考無キコトヲ明瞭ニ了解セシムルノ方針ヲ執リ且苟モ支那側ニ宣傳ノ機會ヲ与ヘハ支那カ北滿ニ於ケル露國ノ利權ヲ回收セントスル企圖ニ對シ日本國民ニ於テ之ニ同情ヲ表シ乃至ハ援助ヲ与フルカ如キ感想ヲ露國ニ与フルカ如キコトナキ様細心ノ注意ヲ必要トスヘシ乍去北滿方面ニ向テ益々我經濟的發展ヲ図ルカ如キハ毫モ露國ノ權益ヲ害スルモノニアラサルヲ以テ之カ為遠慮ナク適當ナル方策ヲ講スルコト然ルヘク又鐵道網ノ擴張ハ滿蒙開發上必要ナルヲ以テ將來支那ヲシテ南北滿州ニ於テ鐵道ノ建設ヲ促進セシムルノ方途ニ出テ同時ニ支那國カ標準軌道ヲ採用シ居ルノ事實ニ顧ミ將來北滿ニ建設スヘキ鐵道ハ主義上標準軌道トナスコト絶對ニ必要ナルヘシ但シ鐵道網ノ全体ニ關係ナキ短距離ノ東支給養線ノ如キハ時ニ除外的の考慮ヲ加フルモ必スシモ妨ケナカルヘシ

四、露國カ間接直接ノ方法ニ依リ広東ヲ起点トシテ國民軍ニ援助ヲ与ヘ遂ニ彼等ヲシテ北伐ニ成功セシメ之ニ伴ヒ

一時支那中部ヲ著キ混乱状態ニ導キタルコトハ世間周知ノ事実ナリ而モ「ボロゲン」「ガロン」等ノ露骨ナル活動ハ露国政府ノ弁解如何ニ拘ラス世人ヲシテ国民軍ノ背後ニ露国アリトノ結論ニ到達セシメタリ其ノ結果日本ノ人心著ク興奮シ自然露国ニ対シ嫌悪ノ念ヲ持タシメ一部極端論者ノ如キハ強力ニ依リ支那ヨリ露国ノ勢力ヲ排除スルコト我國ノ安全ヲ確保スル上ニ於テ絶対ニ必要ナリト叫フニ至レリ露国政府ハ大正十四年ノ基本条約締結ノ際約束シタル通り爾來日本国内ニ於テ宣伝カマシキ行動ニ出テタルコトナキハ事実ニシテ露国ノ誠意固ヨリ之ヲ認ムルニ足ルモノアルモ支那ニ対スル露国ノ宣伝ハ延ヒテ日本人心ニ容易ナラサル悪影響ヲ及ホス点ニ顧ミ条約ニ根拠ヲ有セサル所以ヲ以テ支那ニ於ケル露国ノ宣伝ヲ看過シ得ヘキニアラス之ヲ露国側ヨリ觀ルニ支那ノ如キ三千年ノ文化ヲ有シ世界ニ稀ナル自治制度ヲ有シ世界人類中多ク其ノ比ヲ見サル個人主義ヲ有スル支那人ニ対シ共產主義ヲ宣伝スルモ徒ニ攪乱ノ目的ヲ達シ得ルノミニテ主義其ノモノノ徹底的發展ヲ望ミ得サルコトニ着眼シ同時ニ露国ハ支那トノ間ニ頗ル長キ国境線ヲ有シ兩國ノ

ムル以上露国ノ国風ヲ尊重シ相互信頼ノ觀念ノ下ニ事業ヲ進ムルノ態度ニ出ツルコト肝要ナルヘク苟モ彼ヲ憎ミ彼ヲ怪ミツツ権謀術数ニヨリ唯利益ノミヲ獲得セントスルカ如キ觀念ヲ去ラサルヘカラス

六、露国ハ主義トシテ帝政時代ノ債務ヲ継承セサル立前ヲ執リ居ルモ将来露国ノ發展ヲ図ル為メ国際団体ノ仲間入りヲ為ス必要上必ス或程度迄旧時代ノ債務ヲ承認スルノ時期來ルヘシト確信ス現ニ仏国トノ間ニハ此ノ目的ノ為メ交渉進行中ナルコト世間周知ノ通りナリ露国ニ於テ他國ニ対シ旧時代ノ債務ヲ償却スルコトヲ約シタル場合ニハ日本ニ於テモ機ヲ失スルコトナク此例ニ倣ヒ旧時代ノ債務(但シ金額ハ余リ多カラス)ヲ償却セシムル為メ適當ナル措置ヲ執ルコト必要ナルヘク現金若ハ公債ニ依ル償却方法ノ外之カ交換トシテ利権ヲ提供セシムルカ如キ方法ニ依ルコトモ一策ナルヘシ

七、日露兩國間ニ於ケル通商關係ハ歐洲戰爭以前ニ於テモ左迄大ナラサリシニ顧ミ外交開始ノ今日直チニ大ナル發展ヲ期スルコト不可能ナルヘシ且下日露兩國間ニ行ハレ居ル貿易ハ僅カニ二、三千万円ニ過キササルモノト判断セ

通商關係重大ナルモノアルニ顧ミ平和ナル支那ハ露国ニ取り最モ大ナル得意先ナルコトヲ体得シ此ノ上露国ニ取テ左迄実益無ク而シテ之カ為メ必然日本ニ悪感ヲ与ヘ日露兩國ノ国交ヲ險惡ニ導クヘキ對支那宣伝ヲ断念セシムルコト日本ニトツテ必要ナルノミナラス又露西亞ニ對シ親切ナル所以ナルヘシ

五、西伯利亞ノ富源開發ハ同方面ノ經濟關係増進上最モ必要ナルニ顧ミ右富源開發上日本ノ協力ヲ俟ツコト唯ニ露国ニ取テ得策ナルノミナラス又經濟關係ヲ基礎トシテ日露間ノ親善關係ヲ確立スル上ニ於テ必要ナルヘシト認ム日本ノ協力ハ財的方面ト智的方面トヨリ之ヲ求ムルコトヲ得可シ日本ニ於テ之ニ応スルニ當リテハ苟モ壟断的且利己的態度ニ出ツヘキニ非ス露国国民ノ自尊の欲求ヲ尊重シ且又其ノ法規ヲ尊重スルノ立場ニ於テ行フコト必要ナルヲ以テ相互信頼ノ觀念ノ下ニ一般ノ利害共通ヲ基準トシテ徐ロニ進ムノ外ナカルヘシ奮一日モ速カニ露国ヲシテ其ノ自力ノミニ依ツテハ到底速カニ開發シ得サル東部西伯利亞ノ富源ヲ日本国民ノ協力ニ向テ開放スルノ方針ヲ定メシメ又日本側ニ於テハ露国ニ於テ其ノ方針ヲ定

ラルルモ今後兩國政府ノ努力如何ニ依テハ必スヤ更ニ増進セシムルコトヲ得ヘシ今日兩國ノ貿易上横ハリ居ル障害ハ多々アルモ露国カ其ノ貿易ヲ政府ノ手ニ収メ居ルコトト外國ニ売ル場合ニハ現金ヲ求メ外國ヨリ買フ場合ニハ延ヘ払ヲ求ムルカ如キ最モ著キ点ナリ前者ハ露国ノ國策變更ニ俟ツニアラスンハ容易ニ改善ヲ見サルヘキモ成ル可ク國營ノ範圍ヲ限局セシムル様仕向クルコト必要ナルヘク又後者ニ對シテハ売買トモニ現時他ノ文明國間ニ行ハレ居ル取引ノ例ニ抛ラシムルコト絶対必要ナルヘク之等ノ点ハ世界結束シテ徐ロニ露国ニ當ルニ於テハ露国ト雖モ國際団体ニ仲間入シ經濟的ニ国力ノ發展ヲ図ル必要上徐ロニ其ノ態度ヲ改ムヘキハ想像ニ難カラサル所ナリ第二第三ノ「ネップ」實現ヲ見ルコト蓋シ遠キニアラサルヘシ

(昭和二年九月三十日 出淵次官口述速記)

(欄外記入)

東方會議ニ依リ對支方針ノ大綱ヲ決定シタルニ付引統キ對露方針ヲ決定スルコト然ルヘキモ此ノ上世間ヲ騒カスコトハ不得策ナリ就テハ今回ハ省内限リコソソリト審議

ヲ尽シ外相ノ決裁ヲ得テ執務上ノ基準ヲ定メ置クコトト致シタシ本書ハ右審議上参考資料ノ一トシテ当座ノ思付キヲ速記セシメタルモノ也

4 昭和2年10月6日 田中(義一)外務大臣 会談  
在本邦ソ連邦大使

滿蒙問題解決並びに日ソ關係に関するドブガ  
レフスキーソ連大使との会談要領

大臣会见録(二十八)

二年十月六日午後露国大使田中大臣ヲ来訪シ大使大臣ノ間ニ左記要領ノ談話交換アリタリ

其ノ一 滿州問題

大臣ヨリ滿州ニ関スル日本ノ政策ニ付先般來各種ノ誤解並ニ宣伝等世上ニ伝ヘラレタルニ鑑ミ自分ノ政策ヲ明瞭ニシ貴大使ノ承知ニ入レ度キ次第ナルカトテ英国大使ニ対シテ為サレタルト同様ノ意見(大臣会见録二十六参照)ヲ述ヘラレタルニ

大使ハ滿州並ニ蒙古ニ関スル日本政府ノ政策ニ付キ閣下ヨリ明確ナル御説明ヲ聴キタルコト誠ニ感謝ニ堪ヘス打開ケ

工業ニ從事シ得ル地域トナランコトヲ希望スル次第ナリ固ヨリ其ノ時期ニ達セハ露国トノ間ニモ諒解ヲ遂ケ日露双方ノ利益相反スルコトナクシテ滿蒙ノ地方ニ相互ニ發展シ得ル方法ヲ講セサル可カラスト感シ居ル次第ニシテ其ノ時期ニ至ラハ無論貴国政府トノ御話合ヲ始ムル積リナリ然ルニ未タ其ノ時期ニ達セサル閣下ノ所謂第一段ノ時期ニ於テ露国側ニ誤解等ヲ抱カルルコトナカラン為今日ヨリ日支ノ交渉ニ付キ予メ之ヲ御承知ニ入レタル次第ナリト説明セラル露国大使ハ右御説明ニ依リ所謂第二段ノ時期ニ入りテモ日本政府ノ御方針ハ蘇聯邦ノ利益ヲ尊重セラルル積リナルコトヲ承リ自分ノ甚タ安心スル所ナリト答ヘタリ

(昭和二年十月七日)

編注 大臣会见録二十六は『日本外交文書昭和期』第一部第一卷『181文書参照』

5 昭和2年10月18日

田中外務大臣  
在本邦仏国大使 会談

滿州鉄道問題等をめぐる日ソ關係についての  
デュビリー仏国大使との会談要領

大臣会见録(三十)

テ申セハ過般來日本政府カ滿蒙ニ対シテ從來ノ政策ヲ変更セラレタリトカ或ハ一種ノ積極政策ヲ行フヘシトノ報道新聞紙ニ散見スルニ至リタル為メ露国ノ輿論之カ為ニ聊カ不安ヲ懷クニ至リタル次第ナルカ只今ノ閣下ノ御説明ニ依リ右ハ全ク杞憂ニ過キサルコトヲ知り自分モ安心スル次第ナリ唯茲ニ御伺ヒ申シ度キハ只今ノ御説明ニ依レハ閣下ノ對滿蒙政策ハ二個ノ階梯ヲ採ラルルコトナルカ如ク即チ第一段トシテハ排日運動ノ終熄及ヒ滿州ノ事態鎮靜ヲ待テ閣下ノ所謂從來ノ行懸リヲ一掃ノ為ニ交渉ヲ続行セラルルコトナルカ茲迄ハ從來ノ日本政府ノ執リタル政策ト何等新ナル所無キカ如シ

然ルニ第二段トシテ右交渉終結後閣下ノ理想タル滿蒙ノ經濟的發展策ヲ講セラルルニ至ルヘキコトト察セラルル所此ノ第二段ノ政策ニ就テモ既ニ何等カ具体的ノ案ヲ有セラルルヤ將又其時期ハ相当長キ將來ノ事トノ御觀察ノ下ニ未タ特別ノ御腹案モ無キ次第ナリヤト質シタルニ

大臣ハ右御會話ノ第二ノ時期迄ニハ相当ノ時日經過スルコトト解シ居レルカ自分ノ理想トシテハ滿州及蒙古カ門戸開放及機會均等ノ主義ノ下ニ各個人ノ自由ニ居住シ自由ニ商

二年十月十八日田中大臣仏国大使ヲ晚餐會ニ招カレタルカ食後大臣ハ同大使ヲ傍ニ招キテ滿洲ニ関スル日本ノ政策ニ付先般來各種ノ誤解世上ニ伝ヘラレタルニ鑑ミ自分ノ政策ヲ明瞭ニシ置キ度シトテ過日英国大使ニ対シテ為サレタルト同様ノ意見(大臣会见録二十六参照)ヲ述ヘラレ

仏国ハ曾テ東支鐵道ニ対シテ重大ナル利害關係ヲ有シタルコトアルカ故ニ只今御話致シタル北滿ノ開發力直ニシベリヤニ關係ヲ生シ之カ為日露ノ間ニ諒解ヲ遂ケサルヘカラサル点ノ如キハ仏国ニ於テモ特ニ意味ヲ持タサル処ナラント考ヘ仍テ今晚之ヲ貴大使ニ御話シタル次第ナリト附説セラレタリ

仏国大使ハ右大臣ノ御厚意ヲ謝スル旨並ニ日本政府ノ政策ハ世上ノ風説ニ拘ラス自分ニ於テハ充分諒解シ居ル積リナル旨ヲ述ヘタル後只今伺ヒタル処ニテハ滿鉄ノ平行線建設ハ日本ニ於テ容認セラレタル処ナリトノコトナルカ自分ノ聞ク処ニテハ英人側等ニテハ北京ヨリ北ニ延ヒテシベリヤ鐵道ニ合スル鐵道線路敷設ノ計画等モアル趣ナルカ斯クノ如キ線路モ平行線トシテ日本政府ニ於テ反対セラルル処ナリヤト問ヒ

之ニ対シ大臣ハ北京ヨリ北ニ延フル線路ノ如キハ日本政府ノ問フ処ニ非ス滿鉄線路ニ近キ地方ニ平行線ヲ建設スルモノ例ハ往年ノ錦愛鐵道計画ノ如キハ日本政府ノ容認スル能ハサル処ナリト答ヘラレタリ

仏国大使ハ右ノ如キ平行線ヲ認メスシテ南滿鐵道ノ計画ヲ擁セラルルコトハ最モ必要ナル処ナルモ去リトテ同鐵道擁護ノ目的ノミノ為ニ将来或ハ建設セラルヘキ右ノ北京北方延長線若クハ東支鐵道ノ如キハ經濟上經營困難ニ陥ルカ如キ状態ニ立チ至ルコトアルハ公平ノ見地ヨリ面白カラス此点ニ付テハ滿鉄側ニ於テモ所謂共存共榮ノ見地ヨリシテ協定賃率ヲ定メラルルコト最モ必要ナルヘク更ニ進テハ日本モ只今述ヘタル滿鉄ト競争ノ立場ニ立ツヘキ鐵道ニ対シテモ若干ノ資本ヲ投セラレ以テ關係国相互ニ利益ヲ得ルノ途ヲ講セラレナハ之コソ東洋經濟ノ為最モ理想ナリト思考スル次第ニシテ其ノ具体的実行方法ハ甚タ困難ナルヘキモ日本政府トシテモ此点ヲ進テ研究セラルルコト希望ニ堪ヘスト述ヘタルニ

大臣ハ運賃ノ点ニ付テハ東支鐵道トハ協定ニ達シ得ル見込アリ而シテ資本合同ノ点ニ付テハ御説ノ如ク理想的ノ案ト

#### ※大臣会見録(三十一)

十月十九日午前田中大臣久原氏ヲ同伴シ露国大使ヲ往訪セラル

大臣ヨリ久原氏ノ渡歐ニ付テハ先日貴大使ニ御話致置タルカ其後同氏ニ対シ政府ヨリ特ニ独逸並ニ露西亞ノ經濟状態調査ヲ依頼シ近日中出發スルコトナリタルカ故ニ本日同氏紹介旁來訪シタル次第ナリト述ヘラレタルニ

露国大使ヨリ然ラハ久原氏ノ旅行ハ政府ノ使命ヲ帶ヒラレタル公ノモノナルヤ將又其目的ハ如何ナルモノナリヤ即チ政府ヨリ授ケラルル訓令ノ大要ニテモ伺フコトヲ得ハ之ヲ莫斯科ニ電報シ久原氏ノ使命遂行ノ為露国政府ヲシテ予メ準備セシメ置クコト最モ肝要ナリト思考スト述ヘ

之ニ対シ大臣ヨリ正シク旅行ハ公ノモノニシテ久原氏ニ対シテハ露獨ノ經濟事情特別調査員ナル資格ヲ与ヘ居レリ其目的ニ付テハ未タ詳細ナル訓令ハ与ヘ居ラサルモ露国ニ於テハ主トシテ臆テ締結セラルヘキ日露通商條約交渉ノ為必要ナル知識ヲ得準備の調査ヲ遂ケシメンコトヲ目的トスルモノナルニ付此趣旨ニ於テ露国側ヨリ諸種ノ便宜ヲ与ヘラレンコトヲ希望スト述ヘラレ

認ムルカ故ニ日本側ニ於テモ研究スルコトスヘシト答ヘラレ

更ニ大使ハ鐵道問題ニ付テハ自分カ大ニ興味ヲ有シバルカ在勤中同地方ノ鐵道問題ニ付テモ研究シタルカ例ハブルガリヤノ如キ豐富ナル物資ヲ開發シテ之ヲ海外ニ搬出スルニ当リ海上ノ便宜ハ希臘側ニ於テ有スルカ故ニ其間利益ノ衡平ナル分配ヲ計ルコト甚タ困難ナル問題ニシテ此点ニ付常ニ紛議ノ絶エサル次第ナルカ滿蒙ノ開發ニ対シ日本カ海上ノ便宜ヲ有スル点ハ規模ニ於テハバルカンノ關係ヨリモ固ヨリ大ナルモノナレトモ其關係甚タ酷似セルモノアルヲ認ム從テ自分ノバルカンニ於テ研究シタル智識或ハ得タル經驗ニシテ日本ニ対シ何等カノ御參考トナルヲ得ハ幸ナリト存スルカ故ニ今後共滿蒙ノ問題ニ付テハ折々御漏シアラシコトヲ望ム旨ヲ希望シタリ

(昭和二年十月二十日 澤田電信課長口述速記)

6 昭和2年10月19日 田中外務大臣  
在本邦ソ連邦大使 會談

#### 久原房之助の訪ソにつき田中外相より駐日ソ連大使に便宜供与方依頼

久原氏ヨリ之カ為露国ノ各方面ノ有力者ニ成ルヘク多数御目ニ掛リ度キ希望ナリト附加ヘ

大臣ヨリ其趣旨ニ於テ貴大使ノ紹介状ノ如キモノヲ久原氏ニ与ヘラレナハ便宜ナルヘシト口添ヘセラレタルニ

露国大使ハ本日總理大臣閣下カ特ニ久原氏紹介ノ為自分ヲ來訪セラレ而シテ其久原氏ハ政府ヨリ公ノ使命ヲ帶ヒテ旅行セラルルコトヲ莫斯科ニ報告セハ之ヨリ有力ナル紹介状ナルモノナク之ニ依リテ露国ノ如何ナル方面ノ人トモ會見ヲ遂ケラルルコト極メテ容易ナリト思考ス付テハ露国ノ如何ナル地方ノ視察ヲ計画セラレ居ルヤ又旅程並ニ隨員ハ如何ナル者ナリヤ承知スルコトヲ得ハ便宜ナリト述ヘタルカ

大臣ヨリ隨員ノ人数ヲ話サレタル後旅程ニ付テハ確定次第貴大使ニ御知ラセスヘキ旨答ヘラレタリ

更ニ大臣ヨリ近日中ハバロフスクヨリ渡日団來訪ノ趣ニテ自分ハ明日ヨリ暫ク旅行ニ出テ不在ナルモ帰京後ハ必ス右渡日団ト會談スルノ機會アルコト存シ居ル処自分ノ不在中ト雖モ右団体ニ対シテハ出來得ル限りノ便宜ヲ供与スル様手配シ置ケリト述ヘラレタルニ

露国大使ハ同渡日団ハ別ニ何等公式若クハ半公式ノ使命ヲ

有スルモノニ非シテ一種ノ観光団タルニ過キサレモノナリ但シ同団体中ニハバロフスク官憲ヲ初メ同地方ノ各方面ノ企業代表者及有力者ヲ網羅シ居ルニ鑑ミ而シテハバロフスク官憲ニ対シテハ從來トモスレハ日本ノ会社若クハ企業家等ニ於テ一種ノ恐怖若クハ邪推ヲ有スルニ非サヤト思ハルル節モアリタルニ鑑ミ同渡日団体ト日本企業者等トノ間ニ腹藏ナキ話合ノ機会ヲ与ヘラレナハ日本ノ今後同方面ニ於ケル各種事業ノ為必ス裨益スル処アルヘシト信シ居レリ此趣旨ニ於テ閣下ノ只今御話ノ御手配ニ対シテハ自分ニ於テモ予メ御礼申上クル次第ナリト述ヘタリ

(昭和二年十月二十日 澤田電信課長口述速記)

7 昭和2年11月30日 田中外務大臣 田本邦米国外使 会谈

滿蒙問題をめぐる日ソ関係等についてのマツ

クヴェー米国外使との意見交換

※ 大臣会見録(三十八)

十一月三十日午後米国外使田中大臣ヲ来訪シ大臣大使ノ間ニ左記要領ノ談話交換アリタリ

一、滿蒙ニ関スル露国トノ諒解運動

日御話シ致シタル節ノ諒解トハ即チ右ニ掲ケタル種類ヲ指スモノナリト説明セラレタルニ  
米国外使ハ自分トシテハ既ニ石炭ニ関スル協定森林事業ニ関スル協定成立シ漁業条約モ既ニ九分通り成立シ居リテ露国ト日本トノ經濟上ノ諒解ハ大体付キ居ル様感シ居リタルヲ以テ先日閣下ヨリ更ニ此ノ上ニ露国トノ諒解ヲ遂クルノ必要アル旨御話シテ伺ヒタルニ依リ其ノ諒解トハ即チ經濟問題ヲ離レ更ニ「ファー・リーチング」ナル政治的ノ協定ヲ意味セラルルモノナラムカト解釈シタル次第ナルカ只今ノ御話ニ依リヨク御趣旨ノ存スル処ヲ諒解シタリト答ヘタリ

二、滿鉄ノ「モルガン」借款問題

米国外使ヨリ先般來御話ノアリタル滿鉄ノ「モルガン」借款問題ニ付テハ國務省ニ於テハ別ニ異存ナキ旨述ヘ居ル趣ナリト語リタルニ對シ  
大臣ハ右ハ甚タ幸ナリ貴大使ヨリモ是非共、同借款成立ノ為御声援ヲ願度シ滿蒙ノ經濟の開發ニ関スル自分ノ方針ハ屢次貴大使ニモ御話致シタル通りニシテ同地方ヲ以テ日本ノ独占的ノ利益範圍トセントスルカ如キ意思モ頭

米国外使ヨリ先般滿蒙ノ開發ニ関シ露国トノ間ニ諒解ヲ遂クルノ必要アル御意見ヲ伺ヒタルカ右諒解ハ政治的意義ヲ有スル特殊ノモノヲ指示セラルル御趣旨ナルヤ其ノ節充分御伺ヒスルコトヲ希望スル次第ナリト述ヘタルニ對シ

大臣ハ右ハ單純ナル經濟的ノ諒解ヲ意味シタルモノニシテ何等政治上ノ意味ヲ有スルモノヲ指示シタル次第ニ非ス御承知ノ通り日露ノ國交ハ回復シ居ルモ其ノ經濟上ノ關係ニ於テハ云ハハ行詰マリノ状態ニアリテ遺憾ノ点多シ差シ当リニ於テ北京協定ニ予見シタル各種諒解ヲ遂クル必要アル処漁業條約ハ大体案文ノ議定ヲ了シタルモ未タ調印ノ運ヒニ至ラス通商條約ニ至リテハ未タ何等交渉ヲ開始シ居ラス更ニ之等條約ノ締結前兩國ノ經濟組織ノ差異ヨリ生スル不便ヲ除ク為特ニ諒解ヲ遂クヘキ事項モ尠カラス例ヘハ露國ノ商業ハ總テ國營ナルニ反シ我國ニ於テハ個人ノ自由取引ヲ認メ居リ其ノ外露國ニ商品ヲ売リ込ミタル日本當業者ハ半年以上ヲ經テ始メテ代金ノ決済ヲ得ル次第ナルニ反シ露國ヨリ貨物ヲ購入スルトキハ即時現金払ヲ要求セラルル等ノ不便即チ之ナリ自分先カ

ナク同地方ヲ支那人及外國人一般ノ利益ノ為ニ開放シ支那ノ他ノ地方ニ於テハ戰爭内亂絶間ナキニ反シ滿州ノミハ各國人ノ為秩序アル安住ノ地タラシムコトヲ希望スルモノナルカ故ニ米國官民ニ於テモ右我方ノ企圖スル処ヲヨク諒解セラレ之ニ要スル資金ノ調達ニ異存ナキ旨ヲ聞クコトハ自分ノ甚タ喜ブ処ナリト述ヘラレタルニ  
米国外使ハ本件借款ノ成立ハ之ニ依リテ米國人ヲシテ益益滿州地方ニ興味ヲ感セシムルニ至ルヘク「モルガン」会社ニ統イテ今後他ノ方面ヨリモ必ス滿州ニ於ケル各種企業ノ經濟的援助ヲ与ヘムトスルモノヲ見ルニ至ルヘク斯クテ日米ノ關係亦財政的ニモ愈々緊密ナルニ至ルヘキヲ考ヘ兩國ノ為自分モ甚タ喜ブ次第ナリト述ヘタリ

三、看護婦事業調査委員會設置問題

米国外使ヨリ先般來聖路加病院長「トイスラー」博士ヨリ自分ニ申シ出テ居ル処ナルカ日本ニ於テハ各専門ニ亘リ甚タ有能ナル医者ハ多数存在シ居ルモ之等医者ノ技術ニ副フヘキ看護婦ノ存在セサルコトハ日本ノ衛生保健ノ上ヨリ見テ甚タ遺憾ノ点ニシテ看護婦トシテハ単ニ親切ノミナラス看護ノ化学的(化學)ノ方法ヲ辨ヘサレハ医者ノ技術

ヲ充分有効ニ發揮セシムルコト不可能ナルハ勿論ナリ此ノ見地ヨリ「トイスラー」博士ハ文部省辺ニ看護婦事業調査委員会トモ云フヘキモノヲ設ケラルルニ於テハ同博士ハ更ニ進ンテ之ト「ロックフェラー」財団トノ關係ヲ付ケ以テ同財団ノ費用ニ依リ日本側委員ヲ米國ハ勿論「ヨローロッパ」ノ「ロックフェラー」財団ト關係アル各病院ノ看護組織方法等仔細ニ調査セシムルノ途ヲ開クコト容易ナリト考ヘ居レリ自分(大使)トシテモ日本ノ保健事業ノ為右「トイスラー」博士ノ意見ニ非常ニ興味ヲ感シ居ル次第ナルニ付閣下ヨリ水野文相ニ一言御口添ヘアリテ前掲調査委員会設置ノ為日本政府ニ於テ先ツ約十萬円ノ予算ヲ計上セラルルコト出来間敷哉ト質ネタルニ対シ大臣ハ御計画ハ誠ニ結構ノコトト存スルカ先ツ關係方面ニ於テ如何ナル意向ヲ有シ居ルヤ質ネ見ルヘシト答ヘラレ

米國大使ハ是非共左様願度ク只今自分ノ申シ上ケタル処ハ後刻覚書トシテ差シ上クヘキニ依リ之ニヨリ關係当局ノ意向御確メアランコトヲ希望スト述ヘタリ

四、支那無線電信問題

大臣ヨリ自分ヨリ御話シ申シ度キコトアリトテ支那ノ無

解モ解ケタル次第ニテ自分カ昨日ノ會談ニ同席シテ得タル感想ニヨレハ日米兩國政府トシテハ大体困難ナク諒解付キタルカ如ク感シタリ此上ハ日米ノ當業者側ニ於テ右政府ノ諒解ニ基キ速カニ話合ヲ付ケンコト望マシキ次第ニテ此点自分ノ赴任當事進言シタル処ト同一経路ニ向フノ兆アルコトハ自分ノ喜フ処ナリ付テハ日本政府ニ於テモ三井側ニ対シ可成速ニ本問題解決ノ途ヲ講スルヤウ只今ヨリ申聞ケ置カレンコトヲ希望スト述ヘタリ

(昭和二年十二月一日沢田電信課長口述速記)

8 昭和3年3月8日 田中外務大臣 會談  
在本邦ソ連邦大使

久原訪ソ・滿鉄東支連絡問題等に関する會談

要領

大臣會見録(五十五)

三月八日午後三時半田中大臣ハ露國大使ヲ往訪セラレ同大使トノ間ニ約二時間ニ亘リ左記要領ノ談話ヲ交ヘラレタリ

一、久原「ミッシェン」ノ目的ニ関スル件

露國大使ヨリ日露兩國ノ關係逐日緊密ニ赴キツツアルハ同慶ノ至リナルカ尙國民ノ或部分ニハ互ニ誤解ヲ抱ク者

線電信問題ニ付昨日貴大使モ同席ノ下ニ「マクマレー」氏ト出淵次官トノ間ニ交換セラレタル談話ノ要領ハ出淵次官ヨリモ聴取シタルカ同次官カ本問題解決ノ私案トシテ示シタル処ハ自分トシテモ其大綱ニ異存ナク「マクマレー」氏モ大体同意ヲ表シテ之ヲ國務省ニ轉達セラレタル趣ヲ聞キ甚タ喜ヒ居レリ惟フニ同無線問題ハ支那ニ關連シテ日米兩國ノ間ニ懸案トナレル唯一ノ不愉快ナル問題ナルカ故ニ是非共速カニ之ヲ解決シテ對支問題ニ付日米益々共同ノ歩調ヲ堅メ行クコトヲ切ニ希望シ居ル次第ナリ付テハ貴大使ニ於テモ此趣旨ヲ以テ國務省ニ進言シ國務省ニ於テ右解決案ニ同意スルト共ニ米國側關係会社ノ説得ニ努ムル様御尽力アランコトヲ望ムト述ヘラレタルニ

米國大使ハ二年前自分カ日本ニ赴任シテ間モナク本問題解決ノ為進言シタル処ハ同問題ヲ日米當業者ノ間ニ於テ諒解ヲ付ケシムルコト早道ナリト云フニアリタリ然ルニ米國政府ニ於テハ支那ト米國トノ直接通信ノ問題ニ付日本側ノ意圖不明ナルカ如ク感シ居タル次第ナルカ昨日ノ出淵「マクマレー」會談ノ結果五年以來ノ右米國政府ノ誤

モ勘カラス例ヘハ先般久原氏訪露ノ目的ノ如キモ日本カ頓テ極東露領ニマテ發展ヲ画スルモノナリト恐怖ヲ抱クモノモアリ根モ葉モナキ説ナルモ露國內ニテモ之ヲ誠シヤカニ吹聴シ居ル者モアリト述ヘタルニ

大臣ハ久原「ミッシェン」ハ自分ノ思付キナリシヲ以テ全部責任ヲ以テ御答ヘ致シ得ル次第ナルカ露國ヲシテ恐怖ヲ懷カシムル原因ヲ包藏スルカ如キ計画初メヨリ自分ノ念頭ニナク又現ニ久原ニ与ヘタル訓令中ニモ斯カル疑念ヲ挿マルヘキ所一点モナシ素ヨリ日本ハ發展セサルヘカラスト雖モ其發展トハ經濟的ノ發展ヲ意味スルモノニシテ日本カ今後南米方面ニモ發展セサルヘカラスト稱シ居ルモ全ク之ト同意味ニシテ其間何等領土問題等ニ觸ルル所ナキヲ答ヘラレタリ

二、滿鉄、東支ノ円滿關係問題

露國大使ヨリ經濟上ノ兩國連携ニ付テハ露西亞ハ日本ノ工業ニ必要ナル諸種ノ原料ヲ供給シ日本ハ其工業製品ノ或ル物ヲ露西亞ニ売込ミ得ル關係ニアルヲ以テ益々緊密有望ニ發展シ行クモノト信シ居ル次第ナリ從テ右發展ヲ阻害スヘキ原因ト見ラルヘキモノハ之ヲ除去スルコトニ

努力セサルヘカラスト信シ居レルカ差当り満鉄ト東支トノ関係ノ如キハ右ノ見地ヨリシテモ成ルヘク速ニ円満関係ニ導カサルヘカラサルモノト信ス然ルニ自分ノ赴任ノ途次哈爾濱ニテ得タル報告ニヨレハ両社ノ關係兎角面白カラス其他大連ニ於ケル露国領事館員ノ遭難事件等ニ絡ミテ滿州ニ於ケル日露在留民双方ノ間ニ漸次一種ノ溝渠ノ築カレツアルカ如キ感アルハ自分ノ最モ遺憾トスル所ナリ従来トテモ東支滿鉄ノ營業上ノ連絡問題等ニ付当事者間ニ協議ヲ開キタル事アリシモ何等纏リタル所ナカリシカ之等モ会社側ノミニ任セ置キテハ協定成立ノ望ミ渺キニヨリ寧ロ東京ニテ閣下ト自分トノ間ニ先ツ茶話シノ二下相談ヲシテ見テハ如何ト存ス尤モ之ハ莫斯科ヨリ訓令アリタル結果申上クルニアラス唯タ自分ノ思付キノ儘ヲ申上クルマテナリ尚支那側ノ思惑モ去ルコトナカラ支那南北政府カ一致シ統一シタル支那側ノ意見ヲ聴キ得ルハ何日ノ事ヤラ見當付カサル今日ナレハ先ツ日露間ニ下相談ヲシテ見テハ如何カト存スル次第ナリト述ヘタルニ

大臣ハ東支鉄道ニ対スル支那側ノ策動ニ付日本カ背後ニ

居ラルル訳ナルヲ以テ是非莫斯科ヲ交渉地トナスコトニ御同意願度シ交渉開始ノ時期ニ付テハ果シテ莫斯科ト決定セハ日本ヨリ専門委員等ヲ派遣セラルル關係モアルニヨリ之ニヨリテ追テ決定スルコトトシ兎モ角場所ハ莫斯科ニ願度シト述ヘタルニ

大臣ハ御趣旨ハヨク諒解シタルカ篤ト考ヘタル上ニテ何分返事スヘキ旨答ヘラレタリ

四、通商条約ノ主眼トスヘキ点

露国大使ヨリ後藤子爵ノ御話ニヨレハ日露通商ノ主眼トスル所ハ露西亞カ日本ヨリ「クレヂット」ヲ得ル点ニ在リト話サレタルカ自分ノ見ル所ニテハ如何ニ「クレヂット」ヲ与ヘラレテモ之カ實際ニ効果ヲ發シ得ル万般ノ仕組カ整ハサレハ露西亞トシテハ決シテ有難味ヲ感セス現ニ英國側ヨリ十五万磅ノ「クレヂット」ヲ提供スル向キアルモ英露国交ノ現状ヲ以テシテハ斯カル信用ノ提供モ何等役ニ立タス故ニ日本トノ關係ニ於テモ日本ハ先ツ如何ナル商品ヲ露西亞ニ向ケ得ルカ之ヲ向ケルニ付テハ商品ノ製法等ハ素ヨリ工業ノ組織ヲ根本的ニ改メテモ露西亞人ノ好ミニ応シ得ル商品ヲ出スト言フ所マテ深刻ニ考

在ルカ如キ推測ヲナス者アリ又斯ル風説流布セラルルカ如キモ支那側ノ為ス所ト日本ト何等ノ關係ナキハ先ツ十分御諒解アリタシ次ニ大連ノ對露西亞領事館員問題ニ付テハ我司法官ノ公正ニ付テハ十分御安神アリタシ司法權獨立ノ精神ハ特ニ我カ内閣ノ尊重スル所ナレハ司法大臣ヲ政黨員ヨリ採用セサリシモ之カ為ニシテ裁判ノ公平ハ政黨政派ニ別ナク明ニ行ハレツツアルハ現ニ這般ノ總選舉ニモ現ハレ居ル所ナリ故ニ大連ノ問題ニ付テモ我司法官ノ裁断ニ絶對ノ信用ヲ措カレンコトヲ希望ス最後ニ滿鉄東支ノ關係ニ付貴大使ト自分トノ間ニ下相談ヲ行ヒ度シトノ御考ハ一応賛成ニシテ至極面白シト考フルモ何レ篤ト考慮ノ上何分御返事スルコトトスヘント答ヘラレタリ

三、通商条約交渉ノ場所及時期

露国大使ヨリ通商条約交渉ノ場所ニ付テハ露西亞側トシテハ重大ナル主義ノ問題決定ノ為ニハ政府所在地カ便宜多ク且ツ事ヲ迅速ニ運ヒ得ヘク又東京ト言フコトナラハ自分ノ現在ノ館員ニテハ到底間ニ合ハス幸ニ在露日本大使館ハ従来種々ノ協定条約等ノ交渉ニモ貴キ経験ヲ有シ

量研究シテ頂キ度シ例ヘハ茶ノ如キハ従来ハ米國カ唯一ノ得意先ナリシカ米國人向キノ茶ニテハ到底露西亞人ノ嗜好ニ合セサルカ如キモ其一例ナリ其他總テノ商品ニ付自然ニ露西亞ニ流レ込ムカ如キ趣向ヲ凝ラスコト必要ニシテ其如何ナル商品ニ付如何ナル趣向ヲ加フヘキヤカオ互ニ研究スヘキ所ナリ条約ニ於テ商品融通ノ此道サヘ付ケ置カハ其他ハ枝葉ノ問題ナリト思考スト述ヘ

大臣ハ後藤子爵ハ何ト言ヒタルヤ自分ハ聞知セス通商ノ要諦ハ貴大使ノ言ハルル通りナリト信ス唯タ日露通商上最モ難関トスヘキハ兩國取引ノ組織ノ相異之ナリ露西亞ハ商業ハ國營ナルニ反シ日本ハ商業ノ自由ヲ原則トス其相異点ヨリ来ル実例ノ一ヲ上クレハ露西亞ヨリ買フ品物ニ付シテハ現金ヲ以テ支払ヲ要求セラルルニ反シ日本人カ露西亞ニ売リタル品物ノ代金ハ六ヶ月乃至九ヶ月後ニアラサレハ決済ヲ得サル始末ニテ結局日本商人ハ初メヨリ此六ヶ月ノ利子ヲ見積ラサルヲ得ス從テ物価ヲ初メヨリ高クセサルヲ得サル次第ナリ通商条約ニ於テハ右ノ難関ヲ如何ニ緩和スルカ等ニ付テモ十分考量セシメサルヘカラスト考ヘ居レリト答ヘラレタルニ

露国大使ハ決済ハ延ヒテモ相手カ政府ナルカ故ニ結局一  
厘ノ損ヲスルコトナク各国ハ安神シテ取引ナシ得ルナリ  
之英國商人カ好シテ常ニ露西亞ニ莫大ノ「クレヂット」  
ヲ与ヘントスル所以ニシテ独逸商人中ニモ最近露西亞ニ  
對シ八年間ノ延取引ヲ契約シタルモノモアリ日本当業者  
モ此点ニ留意シテ国营ナル点ニ反ツテ今少シ信用ヲ措ク  
様致度キモノナリト述ヘタリ

五、不侵略条約問題

露国大使ヨリ自分ハ適當ノ時期ニ不侵略条約ノ問題ヲ御  
話致シ度存シ居ル処今日ハ未タ其期ニ非スト考ヘラルル  
ヤト尋ネタルニ

大臣ハ日露ノ關係ハ階級ヲ上クルカ如ク順序ヲ立テ決シ  
テ飛ヒ上リラスヘカラス不侵略条約ノ如キ通商其他ノ条  
約締結ノ上ニテ考量スルコト可然ト答ヘラレタリ

六、露国大使ノ日本無産党援助問題

露国大使ヨリ過般日本ノ総選挙ニ当リ露西亞共產党カ当  
大使館ヲ經テ選挙費用ヲ日本無産政党ニ供給シタリトノ  
記事二、三新聞ニ掲載セラレ初メハ新聞ノコトナレハ別  
ニ氣ニモカケサリシカ最近ノ報道ニハ本件カ閣議ノ際ニ

年九月頃一度日本ヲ訪問セシメタシト存スルカ如何ト尋  
ネタルニ對シ

大臣ハ同氏カ個人トシテ漫遊シ来ル分ニハ別ニ差支ヘナ  
キ旨答ヘラレタリ

八、本年度分出漁問題

露国大使ヨリ漁業条約其後ノ成行ニ付テハ自分ハ莫斯科  
ヨリ何等報告ニ接シ居ラサルモ同条約ノ批准交換後ル  
コトアリトスルモ本年ノ出漁ニ関シテハ恰モ同条約カ実  
施セラレタルモノトシテ其条項ヲ適用スルコトトセハ問  
題ハ容易ニ処理サレ得可シト思考スル処御意見如何ト尋  
ネタルニ

大臣ハ自分トシテハ本年ノ出漁ハ昨年通続行シ得レハ好  
都合ト存シ其積リニテ莫斯科ニテ交渉セシメ居ル管ナリ  
シカ詳シキ報告アリ次第貴大使ニモ御知ラセスヘキ旨答  
ヘラレタリ

九、对支武器輸入禁止問題

大臣ヨリ先般莫斯科へ轉達方御願シタル对支武器輸入禁  
止問題ニ付テハ未タ莫斯科ヨリ返事ナキヤ実ハ同問題ニ  
テ北京ノ決議ニ参加方ヲ勧誘シタル他ノ国ニテハ露西亞

モ問題トナリタリトノコトナルヲ以テ本日特ニ御話申上  
クル次第ナルカ自分ハ誠心誠意正当ナル国交ノ増進ニ腐  
心努力致シ居リ若シ新聞記事ノ如キ背信ノ行動ヲ強キラ  
ルルニ於テハ自分ハ之ヲ行フヨリモ先ツ職ヲ辞スル積リ  
ナリ故ニ閣下ニ於テモ十分自分ノ大使館ノ公正ナルヲ御  
信用アリタク以テ適當ナル機会ニ於テ右新聞記事ヲ適當  
ニ打消サシムル様御措置相成ヲ得ハ幸ナリト述ヘタルニ  
大臣ハ有体ニ言ヘハ自分ノ手許ニモ右種報告屢々接到シ  
ツツアリ然レトモ貴大使館ニ斯ル行動ナカルヘキハ自分  
モ信スル所ナルヲ以テ適當ノ機会ニ新聞社側ニ可然話シ  
置ク可キ旨約束セラレタリ

七、「ルナチャルスキー」氏渡日問題

露国大使ヨリ曩ニ改造社ノ招待ニヨリ「ルナチャルスキ  
ー」氏ノ渡日問題アリ出淵次官ニ相談シタルニ見合ス方  
宜シカラントノ御意見ナリシカ「ル」氏カ自発的ニ全ク  
個人トシテ日本ヲ訪問スルニ何等不都合アルヘキカ同氏  
ハ穩健ナル人ニシテ從テ渡日ノ上ハ必ス兩國ノ国交ニ貢  
獻スル所尠カラスト信ス依テ其講演等ハ予メ打合せ注意  
スル等ノ措置ヲ執ラルルコトトシ兎モ角モ個人トシテ本

カ真面目ニ对支武器輸入ヲ取締ラサル限り自分等丈ケ決  
議ヲ勵行シタリトテ効果ナシトサヘ言ヘル国モアル趣ナ  
ルカ自分ハ勿論露西亞モ支那ノ内乱ヲ終熄セシムル一方  
法トシテ本問題ヲ真面目ニ考ヘ呉レルコトト信シ依テ其  
回答ヲ待テ居ル次第ナリト述ヘラレタルニ

露国大使ハ自分ハ先日モ申上ケタル如ク露西亞ノ回答ハ  
日本ニ満足ヲ与フルモノナラント信シ居レリ而シテ遅ク  
モ今週土曜日(十日)ニハ莫斯科ヨリ回答アルヘシト期  
待シ居ルニ付接到次第御知ラセスヘキ旨約シタリ

会谈終リ大臣辞セラルルニ當リ種々貴大使ノ御意見ヲ伺ヒ  
利スル所アリタルカ尚一応確メ置キ度キコトアリトテ(一)滿  
鉄ト東支トノ關係ニ付東京ニ於テ下相談スルノ件ニ付日本  
側ニテ承諾ストセハ貴大使ハ莫斯科ニ稟申ノ上直ニ当地ニ  
テ開談セラルル積リナリヤ(二)通商条約ニ付テハ交渉ノ場所  
及時期ハ別問題トシ兎モ角露西亞側ニテモ之ヲ締結スル意  
見アルモノト見テ宜シキヤト尋ネラレタルニ

露国大使ハ右二点何レモ之ヲ肯定シタリ

(昭和三年三月十三日 澤田電信課長口述)